

小杉町小杉流通業務団地内No.1遺跡

発掘調査報告

1992年3月

富山県小杉町教育委員会

序

小杉町南側に連なる緑豊かな射水丘陵には、これまでの調査によって多くの遺跡が存在する地域として知られています。

この丘陵に北陸自動車道小杉インターチェンジが早くに建設され、その後の道路網の整備により、射水丘陵周辺では各種の公共事業をはじめ、近年ゴルフ場の建設や会社の敷地造成など民間の大型開発事業が相次いで進められ、環境も大きく変化しつつあります。

このような状況の中で私達は、国民共有の財産である文化財を末長く後世に伝えるため、埋蔵文化財の保護と開発との調整に努めています。

このたび、株式会社伸光の建設に先立つ発掘調査によって、弥生時代末から古墳時代初めにかけての方形周溝墓を発掘しました。周辺の平野部に接する丘陵上には、同時期の集落や墳墓・古墳が多く所在しており、この地域の当時の生活を探る上で貴重な資料を提供しました。

本書は、調査の内容をまとめたものですが、当地域の歴史を理解する上で、少しでも役立てば幸いです。

今回の調査において、多くの方々からご援助を賜りました。ご協力いただいた関係者や諸機関の方々に厚くお礼申し上げます。

平成4年3月

小杉町教育委員会
教育長 川腰 豊一

例　　言

1. 本書は、富山県射水郡小杉町下条^{ハシタケ}515番地他に所在する小杉流通業務団地内No.1遺跡の発掘調査報告である。
2. 調査は、工場増設に先立ち、株式会社伸光の依頼を受けて、小杉町教育委員会が調査主体となり行った。なお、調査にあたり山武考古学研究所の調査協力を得た。
3. 調査事務局は、小杉町教育委員会に置き、社会教育課主任金山秀彰が事務を担当し、社会教育課課長荒川秀次が総括した。また7月からは生涯学習課課長盛田寿子が統括した。
4. 調査担当者及び調査期間、面積は次のとおりである。

確認調査：平成元年9月25日～9月26日	小杉町教育委員会	納谷守幸 原田義範
試掘調査：平成2年12月8日 約1,700m ²	〃	上野 章
本調査：平成3年6月10日～6月26日 約 900m ²		桐谷 優 荒井英樹

5. 本書の執筆は上野と荒井で分担し、編集を荒井が行った。なお文責は文末に記した。

6. 実測図中の北は磁北である。
7. 遺構番号の分類記号は次のとおりである。

SD：溝、SK：穴、SX：不明または墓

目　　次

I 調査に至る経過と調査の経緯	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査の経緯	1
II 遺跡の位置と考古学的環境	2
III 調査の概要	4
1. 確認調査	5
2. 試掘調査	5
3. 本調査	5
IV 検出された遺構と遺物	6
1. 遺構	7
2. 遺物	10
V まとめ	11
引用・参考文献、写真図版	

I 調査に至る経過と調査の経緯

1. 調査に至る経過

本遺跡は、昭和48年12月に富山県教育委員会により、小杉流通業務団地及び周辺地区の遺跡分布調査によって発見され、遺物散布地（須恵器）として報告されている。

また、昭和57年4月には富山県教育委員会により、遺跡内を通る道路改良工事に先立って路線内の発掘調査を実施し、縄文時代中期の穴と共に縄文土器・石斧が出土している。

さて、小杉町下条五歩一地内の丘陵に株式会社伸光の工場新設計画が小杉町に具体的に提示されたのは、昭和63年8月である。同社は主に金属製品に塗装を行なう加工工場であり、これまで大島町を中心に工場や倉庫が5箇所に分散していた。このため、生産性の向上と処理管理の円滑化などを図るために小杉町で統合新工場を建設することになった。その敷地面積は約55,000m²であり、平成元年10月に新工場が稼働している。

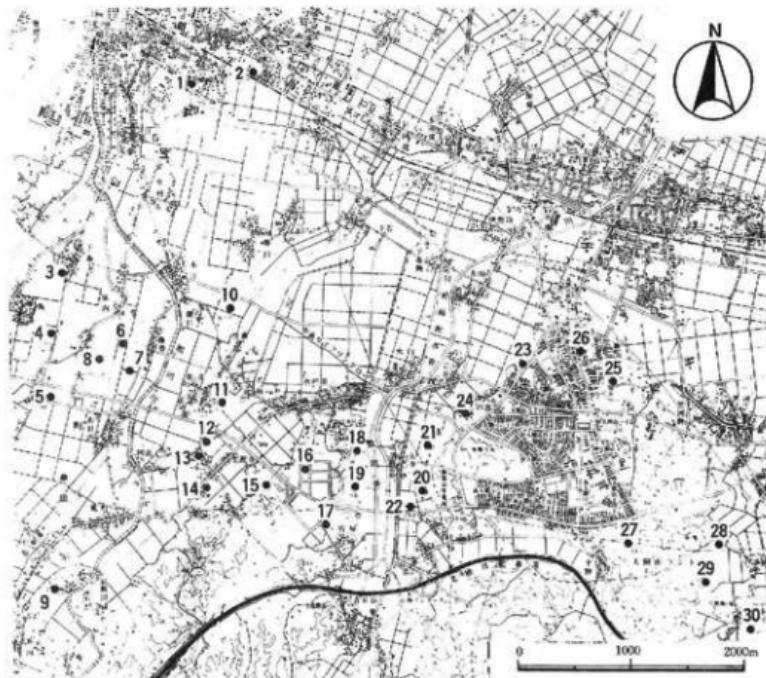
この間、昭和63年9月から平成元年2月にかけて小杉町と会社との間で、開発にかかる法的規制や富山県に対しての開発行為届出等について検討が進められた。小杉町教育委員会では、建設予定地に周知の小杉流通業務団地内遺跡群No.1遺跡が含まれていたため、その取り扱いを協議した。周知の遺跡は第一期工事から除外することで工事との調整が図られた。また、昭和63年12月には予定地を対象とした遺跡の分布調査を実施したが、山林のため新たな遺跡は発見されなかった。しかし、未発見の遺跡の存在する可能性が高いことから遺跡の所在確認の必要性が合意された。この遺跡の所在確認は、平成元年9月に至ってわずかに残った未造成地において実施したにすぎなかった。

平成2年5月に至って製品の増産発注に対応するため第二期工事の工場増設計画が本格化し、小杉町に示された。工事予定地には、第一期工事から除外された遺跡が含まれることから調査依頼があった。小杉町教育委員会では、平成2年12月に工事にかかる約1,700m²を対象として試掘調査を行なったところ、遺構の存在が明らかになったため工事に先立つ本調査が必要となった。

しかし、小杉町教育委員会では多くの調査をかかえ、早く対応できないことから民間の調査機関に応援を求め、平成3年6月に本調査を実施することとなった。
(上野)

2. 調査の経緯

調査は、株式会社伸光の依頼を受けて、小杉町教育委員会が主体となり、同教育委員会の調査協力依頼を受けて、山武考古学研究所が実施した。調査期間は、平成3年6月10日から6月26日の延べ17日間で、面積は、第二期工事にかかる約1,700m²のうち、試掘調査で遺構が確認された東側の約900m²を対象とした。当初調査対象面積は約500m²であったが、方形周溝墓の可能性が指摘されたことから、18日、調査区を約900m²まで拡張した。しかし拡張部分からは、遺構と思われるものは何も検出されなかった。
(荒井)



第1図 位置と周辺の遺跡

第1表 射水丘陵の遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	No.	遺跡名	所在地	No.	遺跡名	所在地
1	八塚A	大門町	11	市ノ井	大門町	21	山王宮古墳	小杉町
2	八塚B	大門町	12	生源寺新十三塚古墳	大門町	22	南太閤山I・II	小杉町
3	島前田	大門町	13	大塚古墳	大門町	23	圓山	小杉町
4	島鉢田	大門町	14	生源寺新	大門町	24	日ノ宮	小杉町
5	牧田	大門町	15	小杉丸山	小杉町	25	二ツ山古墳	小杉町
6	布目沢北	大門町	16	小杉流団No.3・6・7	小杉町	26	中山中・中山南	小杉町
7	布目沢東	大門町	17	小杉流団No.19	小杉町	27	上野赤坂A	小杉町
8	掘内	大門町	18	小杉流団No.1	小杉町	28	土代A	小杉町
9	串田新	大門町	19	五歩一古墳	小杉町	29	石太郎C	小杉町
10	繩田	大門町	20	変電所西古墳	小杉町	30	草山B	小杉町

II 遺跡の位置と考古学的環境

小杉流通業務団地内No.1遺跡は、富山県射水郡小杉町下条515番地他に所在する。この地域は、富山県のほぼ中央に伸びる射水丘陵の北端にあたり、直下には射水平野が開け、下条川が富山湾に向かって北流している。本遺跡は、この丘陵と平野の接する位置にあり、標高約37mの丘陵上に立地する。

小杉町は、中央に北陸自動車道が東西に横断し、東は新堀川、西は県道新湊・婦中線、南は射水丘陵、北は国道8号線によってほぼ区画される。古くから米と金属と焼き物（小杉焼）によってその生計を支えてきた地域で、近年では「ジャパン・エキスポ富山'92」の開催が県民公園太閤山ランドにおいて予定されている。

この小杉町を南北に二分すると、北の平野部と南の丘陵部に大別できる。

北の平野部は、庄川、和田川、下条川等によって形成された扇状地および沖積平野の東部にあたり、地層は、新生代第三紀沖積層に、砂層、粘土層、礫層が堆積している。この地域は、弥生時代以降、集落および耕作地として主に活用され、その景観は今日においても未だ名残を留めている。

一方南の丘陵部は、射水丘陵の北部にあたり、下条川によって東の太閤山丘陵と西の金山丘陵に分けられる。地層は、新生代第三紀に泥岩・砂岩層によって構成される齊井谷泥岩層を基盤として、その上層に礫層と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火砕岩層が堆積している。この太閤山火砕岩層の風化土は、良質の粘土となり、現在でも瓦の原料として利用されている。この地域には、旧石器・縄文時代から人間が生活していたことが数々の発掘調査によって報告されており、古墳時代は墓域として、奈良・平安時代は鉄および須恵器の生産地として活用されていた。

本遺跡の周辺には著名な遺跡も多く、考古学的環境に恵まれている。

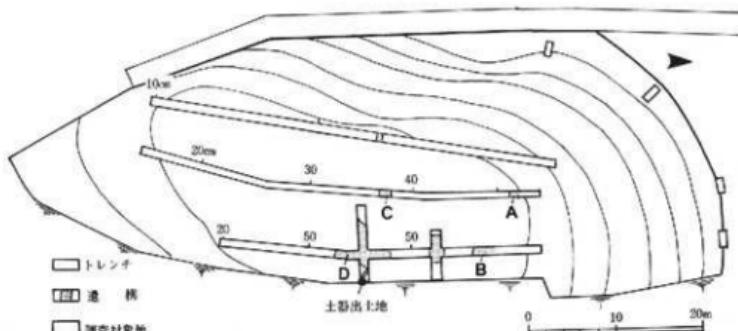
標高10m前後の平野部には、中山中・中山南遺跡（縄文・弥生・古墳・奈良・平安）、西山遺跡（縄文・弥生）、日ノ宮遺跡（奈良・平安）などがある。弥生時代から古墳時代にかけての時期、扇状地の湧水地には集落や墳墓が少なからず点在した。

一方標高15~45mの段丘上や丘陵上には、五歩一古墳（古墳）、変電所西古墳（古墳）、上野赤坂A遺跡（旧石器・古墳・奈良・平安）、右太郎C遺跡（旧石器・奈良）、南太閤山I・II遺跡（縄文・弥生・古墳・奈良・平安）、小杉流通業務団地内遺跡群No.3・6・7遺跡（縄文・古墳・奈良）などがある。また、平成2年に国指定遺跡となった小杉丸山遺跡（飛鳥～白鳳の瓦陶兼業窯・工人集落跡／縄文・弥生・古墳・飛鳥～白鳳・奈良）なども立地している。古墳時代には、丘陵の頂上付近に古墳が多く点在し、奈良・平安時代には、丘陵の谷間に須恵器窯や製鉄用の木炭を焼いた炭焼窯、製鉄炉やこれらの職種に従事していた工人の集落が数多く点在していた。

（荒井）



第2図 遺跡と地形



A の 土 層	B の 土 層	C の 土 層	D の 土 層
0~30cm 盛土	0~40cm 盛土	0~20cm 盛土	0~30cm 盛土
30~50cm 表土	40~65cm 表土	20~40cm 表土	30~50cm 表土
50~80cm 黒褐色土	65~75cm 黑褐色土	40~50cm 黑褐色土	50~80cm 黑褐色土
	75~100cm 暗褐色土 以上		80~110cm 黑色土
			110~120cm 暗褐色土

第3図 試掘調査トレンチ概略配置図

III 調査の概要

1. 確認調査

調査は、第一期工事にかかるもので、未造成で残る伐採後の丘陵斜面3箇所において、遺跡の所在確認を平成元年9月25日・26日の2日間にわたって実施した。調査方法は重機を用い約1m幅の溝掘りを地山の黄褐色土まで行った。しかし、残された斜面からは古代の炭焼窯跡等の遺構は確認されなかった。

2. 試掘調査

調査は、第二期工事にかかる遺跡東側部分の約1,700m²を対象として、遺跡の内容や状況を把握することを目的に、平成2年12月8日に実施した。調査方法は、重機を用い、約1m幅の試掘溝を地山の黄褐色土まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。発掘面積は、約150m²である。

遺跡の層序は、丘陵上に厚さ20~40cmの工事による盛土があり、その下にⅠ層表土の褐色土(10~20cm)、次いでⅡ層の黒褐色土(0~20cm)が堆積し、Ⅲ層の黄褐色土に至っている。

遺構は、丘陵上の高まりを中心に存在しⅢ層の黄褐色土上面において確認した。その広がりは、東西20m、南北約30mの範囲からで、黒褐色土の覆土をもつ穴や幅数1cmから1.5mの溝を検出した。出土遺物は、ハケメ調整を内外面に施した茶褐色の上器1点が溝上面から出ている。この上器の時期ははっきりしないが古墳時代かと思われた。

また、遺構が集中する丘陵上の平坦部北側(図のA・B間)では、Ⅲ層の黄褐色土上面への勾配が南側からの平坦な状態から急に深くなり勾配を増すために、黒褐色土や暗褐色土が厚く堆積していた。これらの遺構の広がりは、東側の崖状の掘削面まで及んでおり、地形図に示されるように東側に伸びた丘陵上の平坦面に本来存在していたことが、地形や遺構の性格等から考えられる。なお、先の確認調査時には、崖状の掘削面まで削平が及んでいた。(上野)

3. 本調査

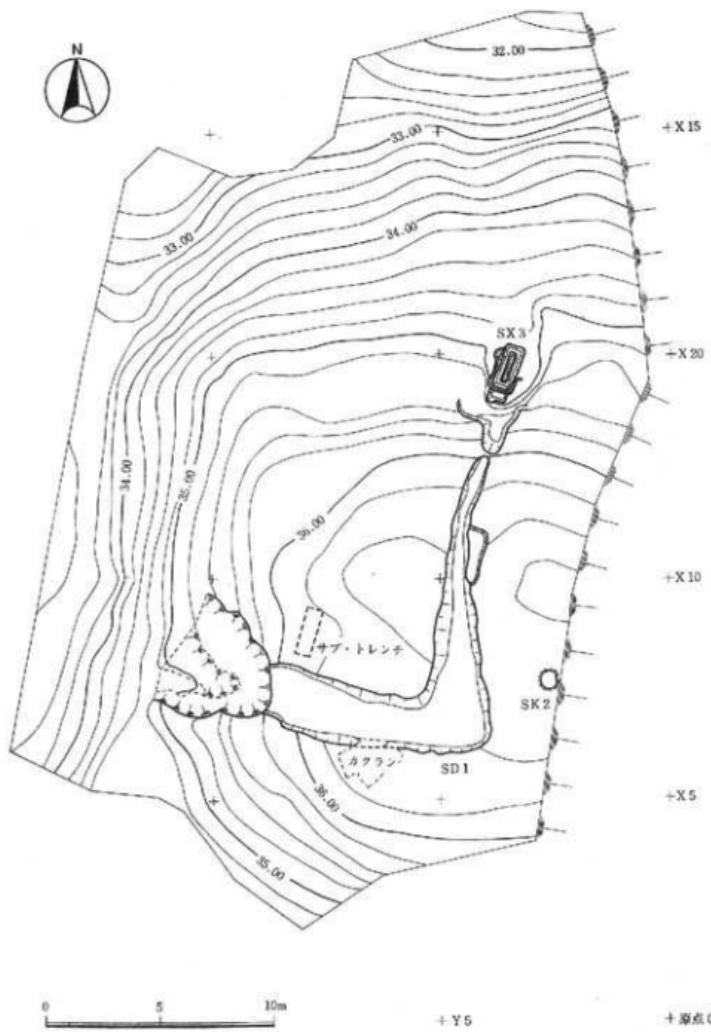
調査は、第二期工事にかかる約1,700m²のうち、試掘調査で遺構が確認された東側の約900m²を対象として、平成3年6月10日から6月26日まで延べ17日間にわたって実施した。当初調査対象面積は約500m²であったが、SD1、SX3が検出された時点で方形周溝墓の可能性が出てきたことから、対面の溝を捜す目的で、約900m²まで調査区を拡張した。

調査方法は、重機を用いて表土排除を行った。最初は第Ⅰ層の盛土のみを排除したが、空き缶やビニールなどのゴミだけが検出されるばかりで、遺構を検出できるような状況ではなかつた。それでさらに第Ⅱ層の黒褐色土及び一部Ⅲ層も排除した。

プラン確認時の検出遺構数は、穴3基と2基の穴を結ぶ細長い溝1条であった。SX3は、SD1の延長を捜す目的で、掘り下げを進めていた過程で発見されたものである。

グリッドは10m×10mの方眼を用い、遺物は遺構ごとに検出した。

(荒井)



第4図 検出遺構

IV 検出された遺構と遺物

I. 遺構

検出された遺構は、溝1条、穴1基、不明遺構1基である。いづれも丘陵の頂点付近、調査区の東側に片寄って検出されており、標高34.8m以下の所では遺構は確認されなかった。

S D 1 (第5図) X 6~12Y 3~8グリッドで検出したL字型の溝。幅は西端付近で最も広く、コーナーはほぼ直角に曲がり、北に向かって狭くなっていく。X 12Y 3グリッド内で一度途切れ、40cm先の所から再び現われてラッパ状に広がる。その延長上にS X 3が検出される。しかしS X 3以北には遺構は検出されない。西端の延長は自然の落ち込みとなっており、遺構らしきものは検出されなかった。最大幅218cm、最小幅50cmを計る。

深さは、西端付近からコーナー付近まで40cm前後とほぼ均一になっており、コーナー付近で最も深く45cmを計る。しかしコーナー付近から北へ向かって徐々に浅くなっており、X 12Y 4グリッドの所で10cmを計り、さらに浅くなってX 12Y 4グリッド内で消える。40cm先の所から再び現われ、徐々に深くなって北側の斜面で途切れる。

X 6 Y 7グリッド内の褐色土中(セクション図の第④層)から古式土師器(壺)が1点、X 8 Y 4グリッドから上師器片が若干量、X 7 Y 5グリッド内の黒褐色土中(セクション図の第①層)からは土師器片(杯)が1点出土している。

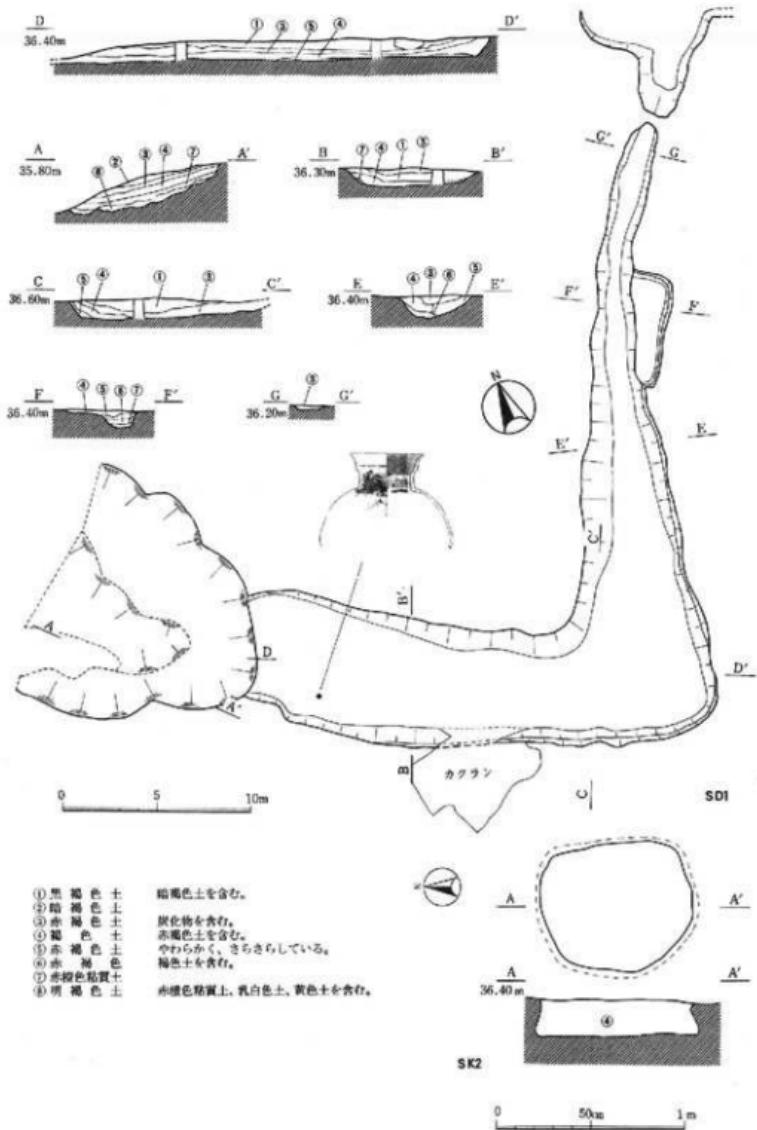
S K 2 (第5図) X 7 Y 2グリッドで検出した梢円形の穴。長径83cm、短径68cm、深さ19cmを計る。上端の径よりも下端の径の方が長く、断面形は台形状を呈する。出土遺物はない。

S X 3 (第6図) X 13~15Y 3グリッドで検出した不明遺構。長方形が三重に重複した形態を呈する。一段目の掘り込みは、南側のおよそ半分しか確認できなかった。形態は南北に長い隅丸方形を呈していたと思われ、長軸は上端で235cm、下端で213cmはあったと考えられる。短軸は上端で117cm、下端で108cmと推定され、計測可能な所で、上端の幅が113cm、下端の幅が105cm、深さ44cmを計る。南側には40×83cm(上端)の四角い張り出し部分を伴う。

二段目の掘り込みは、コーナーが直角に近い、南北に長い長方形であり、西側の壁面が崩れた形を呈する。長軸は上端で199cm、下端で173cmを計る。短軸は崩れた部分を含めると上端で99cm、崩れた部分を含めないと上端82cmを計り、崩れる前の短軸の幅は88cm前後と推定される。短軸の下端は55cm、深さは44cmを計る。

一段目の掘り込みも二段目の掘り込みも、上端に関しては、長軸と短軸がほぼ2:1の比率で掘り込まれている。

三段目の掘り込みは、コーナーが不明瞭な、北側がやや膨らんだ形の、南北に細長い隅丸方形を呈する。長軸は上端で144cm、下端で134cmを計り、短軸は上端で24cm、下端で18cmを計る。最大幅は上端で33cm、下端で23cmを計り、深さは7cmを計る。短軸付近から南に向かって幅はほぼ均一となり、短軸が最小幅を兼ねる。三段日の掘り込みは、二段目の掘り込みに伴うもの



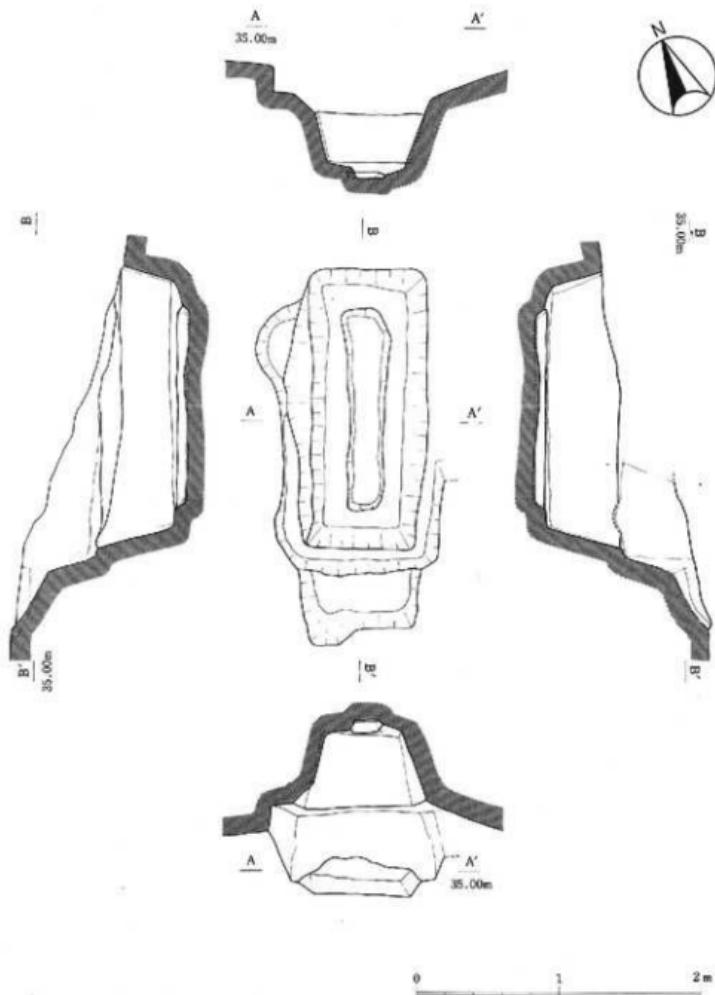
- | | |
|-----------|----------------------|
| ① 黒 褐 色 土 | 暗褐色土を含む。 |
| ② 黒 褐 色 土 | |
| ③ 黑 褐 色 土 | 炭化物を含む。 |
| ④ 黑 褐 色 土 | 赤褐色土を含む。 |
| ⑤ 赤 褐 色 土 | やわらかく、さらさらしている。 |
| ⑥ 赤 褐 色 土 | 褐色土を含む。 |
| ⑦ 暗褐色粘質土 | |
| ⑧ 明 褐 色 土 | 赤褐色粘質土上、乳白色土、黄色土を含む。 |

第5図 SD1, SK2実測図

と思われ、木棺墓の棺座の掘り込みの可能性が考えられる。

なお、覆土を洗浄したが、遺物は検出されなかった。

(荒井)



第6図 S X 3 実測図

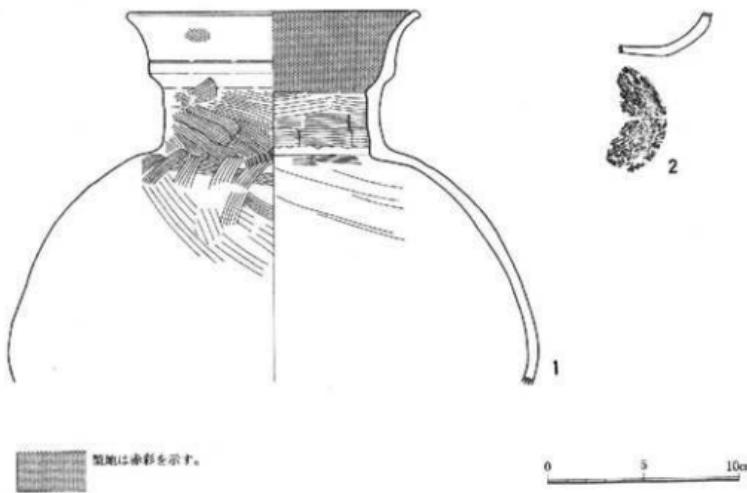
2. 遺物

検出された遺物は、古式土師器壺（第7図の1）1点と土師器片が若干量、土師器杯（第7図の2）が1点である。いづれもSD1から出土したもので、SK2およびSX3からは遺物は検出されなかった。

1は、第①層（第5図）、褐色土中から出土した。法量は、口縁径が15.6cm、残存器高が19.8cmを計る。器形は有段口縁壺で、頸部は、肩部からやや内反気味で直立し、口縁部は棱をもって外反する。胴部の中位をもって最大径（28.3cm）をとり、総体的に球形を呈すると思われる。整形は、頸部から肩部にかけて細かく、胴部は粗く、右下から左上に向かって斜めに細かなハケメ調整が行われている。再度肩部は縦に荒いハケメ調整が施されている。内面は、頸部から胴部にかけてハケメ調整が施された後、肩部から胴部にかけて横にヘラナデ（木ロナデ）が行われている。胎土は砂粒および石英を含み、色調は淡褐色を呈する。口縁部の内外面に赤彩痕を残すが、剥離によりその範囲は限定できない。焼成は良好である。

2は、第①層（第5図）、黒褐色土中から出土した。法量は、残存器高が2.4cm、底径が推定で7.0cmを計る。器形は、体部が内反気味となる。摩滅がひどく整形等は明瞭ではないが、底部に回転糸切り痕を残す。胎土は砂粒を含み、色調は淡褐色を呈する。焼成は良好である。

（荒井）



第7図 SD1出土遺物実測図

V まとめ

本遺跡は、JR北陸本線小杉駅の南東約2.5km、射水丘陵の北端に位置し、丘陵の東端、下条川に面した小丘陵に立地する。標高37mの小丘陵はすでに東側を工場造成時に削られた状況であったが、35~36mの等高線が方形状を呈することから従来は東西に長い方形状を呈するものと考えられる。

調査の結果、造構は溝（SD 1）1条、穴（SK 2）1基、不明造構（SX 3）1基が検出されている。

SD 1

残存する小丘陵の頂部西側に検出されている。遺存形状は「逆し字」を呈し北・西側で途切れるようである。しかし、前述したように等高線は方形状に巡るなど、一体化して考えると方形に巡っていた事も十分考えられ、方形周溝墓としての性格も窺われる。また、周溝部が一巡しない類例は朝光寺原II号でみられ、周溝の対面は自然斜面となっている。さらに、溝の高位部より古式土師器有段の壺形土器もみられる事からも指摘できる。

有段の壺形土器は、まとまって検出され復元時に全て接合できなかったものの、ほぼ一個体分の量である。底部については検出されていない。頸部は直立するものの、稜はシャープではなく、口縁部の開きは余り見られない事などの特徴から月影II式と思われる。さらに口縁部内外は赤彩されている事からも方形周溝墓との関連性が大きいと思われる。

SX 3

SX 3は斜面部の事もあり当初予測されなかったが、SD 1の延長を確認する段階で検出されている。SD 1の北側延長線上、小丘陵の斜面部に、主軸方向は等高線と直行する形で検出されている。標高は35mを計る。掘り方は二段掘り込みで二段目の底部には、さらに長さ144m、幅24cmの細長い掘り込みが見られる。

形態から考えると上塙墓的な様相であり、調査時にはSD 1の延長線上に位置する事等から方形周溝墓に併存する土塙墓と思われた。上塙墓の概念からすれば一段目に蓋板を使用した可能性も考えられるが、棺材・H張り用の薪土等の痕跡は認められなかった。二段目底部の長方形の掘り込みは断面「U」の字形を呈し、土塙墓の概念からすれば割り竹形木棺の棺座に該当すると思われる。覆土中の骨片・副葬品は入念に精査したが検出に至っていない為、さらに土塙内の上を洗浄したが伴う遺物は検出されていない。

いずれにしてもSX 3は、形態的あるいは構築法において上塙墓として可能性は高いものの、SD 1あるいは方形周溝墓との関連性については今一つ明確でない。

小杉流通業務用地内遺跡においてもNo 1遺跡付近は、木棺墓が検出されたNo 17遺跡、県下でも最古の五歩一古墳など弥生時代末~古墳時代前葉に亘り墓域となっている。周辺及び県内では、3ヶ所に墓群が並び方形台状墓・方形周溝墓・要棺墓・土塙墓が検出された小杉町南太閤

山Ⅰ遺跡を始めとし、同町畠山遺跡、上市町飯坂遺跡、杉谷A遺跡、小矢部市樋掛遺跡がその類例としてあげられる。

(荒井)

引用・参考文献

ウ 上野 章・押川恵子

1990 大門町埋蔵文化財調査報告 第6集『布目沢北遺跡発掘調査概要』 大門町教育委員会

オ 大塚初重・井上裕弘

1969 「方形周溝墓の研究」『駿台史学24』

ク 久々忠義 1986

「富山県における月影式土器について」『シンポジウム「月影式」土器について—報告編一』 石川県考古学研究会

コ 児玉真一・池辺元明

1980 若宮・宮田工業団地関係埋蔵文化財調査報告 第2集 『福岡県鞍手郡若宮町・宮田町所在遺跡群の調査』福岡県教育委員会

ス 鈴木勝弘

1977 『原史墓制研究5—方形周溝墓研究その5—「研究史編」東日本』 原史墓制研究会

セ 関 清・久々忠義・山本正敏・酒井重洋・島田修一

1989 『三谷遺跡・一つ山古墳群』 富山県埋蔵文化財センター

タ 高倉洋彰

1980 『弥生時代社会の研究』 審美社

フ 副島邦弘・佐々木隆彦

1984 『一般国道210 号線浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第3集塙堂遺跡Ⅱ-E地区』福岡県浮羽郡吉井町所在遺跡の調査』福岡県教育委員会

ヤ 八幡一郎・大場磐雄・内藤政恒

1979 『新版考古学講座4—原史文化(上)弥生文化』 雄山閣

八幡一郎・大場磐雄・内藤政恒

1979 『新版考古学講座4—原史文化(下)古墳文化』 雄山閣



1. 調査区全景（北西より）

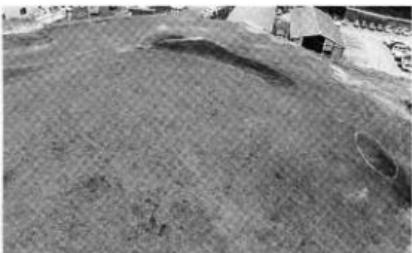


2. 調査区全景（南西より）

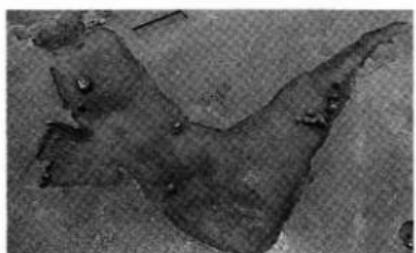
図版2



1. プラン確認状況（北より）



2. プラン確認状況（北西より）



3. SD 1 遺物出土状況（南東より）



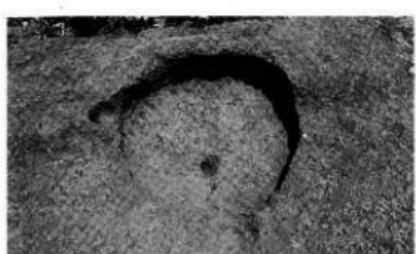
4. SD 1 セクションD-D'（南より）



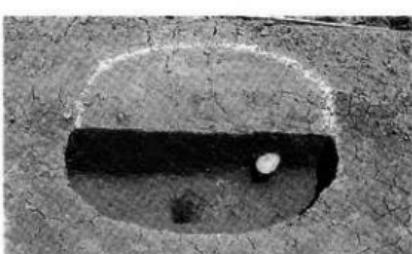
5. SD 1 完掘状況（北より）



6. SD 1 出土月影式土器（東より）



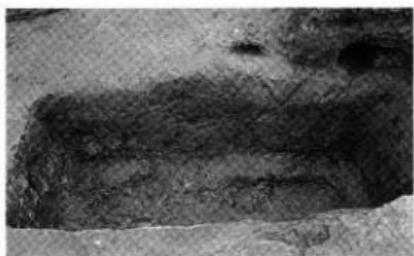
7. SK 2 完掘写真（西より）



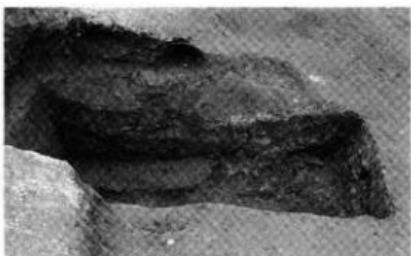
8. SK 2 セクション（西より）



1. SX 3 完掘写真（北より）



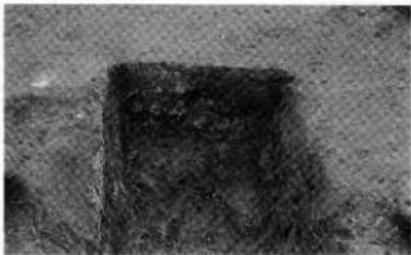
2. SX 3 東側壁面（西より）



3. SX 3 西側壁面（東より）

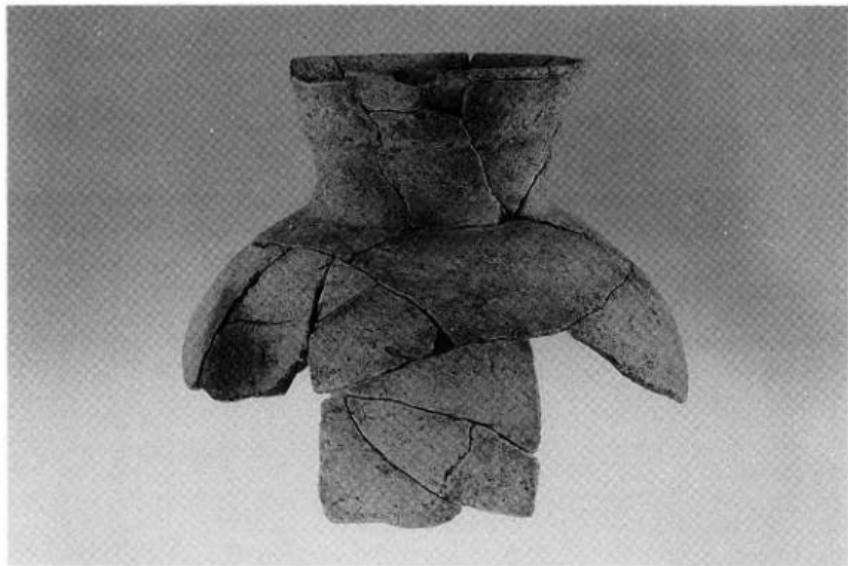


4. SX 3 南側壁面（北より）

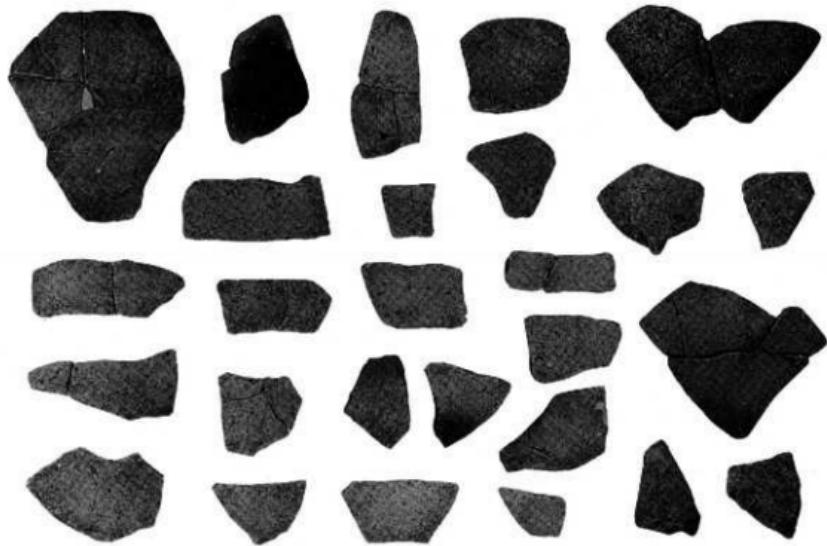


5. SX 3 北側壁面（南より）

図版 4



1. SD 1 出土月影式土器（縮尺約1/3）



2. 月影式土器その他の土器片（縮尺約1/3）

小杉町小杉流通業務団地内No.1遺跡

編 集 山武考古学研究所

発 行 平成4年3月30日
小杉町教育委員会

印刷所 文化総合企画
TEL 0476-24-1563

